

抗 Sup35/PSI+ (*S.cerevisiae*) 抗体、ウサギポリクローナル

62-300 100 µl

保存: 4°Cまたは-20°Cで送付、-20°C保存

免疫原: Sup35 タンパク質のアミノ酸 No. 494-507 に相当する合成ペプチド

形状: 精製 IgG 画分 4 mg/ml in PBS⁻ with 50% glycerol, 0.09% sodium azide

反応性: *S. cerevisiae* Sup35。他の種についてはテストしていない。

用途

1) ウェスタンブロッティング (1,000~2,000 倍希釈)。他の用途については調べられていない。

背景: 出芽酵母 *S. cerevisiae* **Sup35 タンパク質**は翻訳終結因子 eRF3 として働いている。このタンパク質は [*PSI*⁻] プリオン状態となると不溶性となり、凝集体をつくる(文献 1)。この状態になると **Sup35** の本来の働きは不全となり、停止信号を無視するという酵母のプリオン病を発生する (文献 2)。この凝集体の形成と維持には分子シャペロン Hsp104 が必要である (文献 3、4)。

データリンク SGD [SUP35/YDR172W](#)

関連製品: #62-301 anti-Rnq1 (*S. cerevisiae*) antibody #62-302 anti-Cdc37 (*S. cerevisiae*) antibody

文献: この抗体は下記文献に用いられた。

. Kimura Y *et al* "The role of pre-existing aggregates in Hsp104-dependent polyglutamine aggregate formation and epigenetic change of yeast prions." *Genes to Cells* **9**: 685-696 (2004)

PMID: [15298677](#)

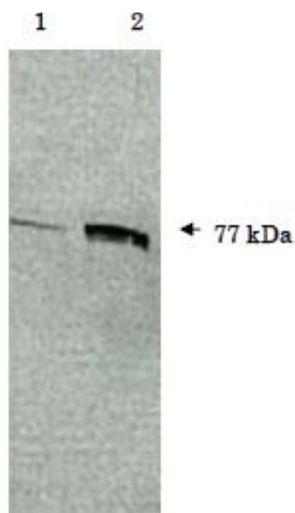


図. 抗 Sup35 PSI plus 抗体を用いたウェスタンブロットによる出芽酵母粗抽出液中の Sup35 タンパク質の検出

1. 酵母内在性レベルの Sup35 の発現
 2. Sup35 遺伝子をプラズミドからの多量発現酵母の抽出液
- 一次抗体は 1/2,000 希釈で用いた。
Sup35 タンパク質は分子量 77.6 kDa の位置に同定された。